

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
 <神戸のファッション都市化をめざす>

K.F.S. news26

事務局/箕谷区二宮町4丁目6ノ2
 パールマンション6F
 デザインルームナカハラ内 TEL 222-4040

— 9月例会 — 世界のブランドと専門店



本日のパリジェンヌのような
 大内順子さん。

9月のマンスリーサロンはコウベファッションフェア参加の公開講座の形でおこなわれました。講師は大内順子さん。セクタープラザのH室には定刻より早くからかなりの人が集ま

っていて、とても熱心な勉強会になりました。今年、大内さんがTBSの取材でパリのオートクチュールのコレクションを見てきた時のお話や、憧れのオートクチュールのブティックのお話。まずはシャネルゼリゼから入ったフランソワ一世通りのテイオールを覗いて、フォーブルサントノールへ。ウンガロ、エルメス、ランバン、ウアレンティノ……。お買物もいけれど、エルメスでは2階にある昔の馬具、革製品、馬車のミニチュアなどのエルメス家のコレクションを見てみましょう。パリにせっかく来たのですから、パリで見れないもの、街を歩く人のファッションなどかパティックの雰囲気を見てくる方がいいようです。お買物をするならパリで買えないもの、たとえばシャネルのバッグとかアクセサリーなど。さてコンコルド広場を通ってずっと行くとカルチエ、プシユロンといった高級貴金属店の並ぶヴァンドーム広場入りにくいお店が多いですが、プシユロンには手軽なブティックのコーナーもあるそうです……と神戸にいなながらパリを散歩していたような一時でした。そのあとシャネル、ジヴァンシー、クレージュ、ウンガロの華やかなコレクションのスライド。

大内さんって本当に素敵な方ですねえ。

●会員ニュース

■清水泰夫さん（パリジェンヌ）



会員の皆様お変わりございませんか。つい先日秋冬物の展示会をすませ、現在フル生産に入った大先、78年春のケミカルシューズ見本市（11月17・18日）が目前にせまり、あんな靴を作っていないこんな靴を作ってみないと、無い智慧をしばって頑張って出荷しておりますが、地方出張の際町並で自社製のシューズと出合った時、あつねいているクと作るものの喜びをひしひしと感じさせられます。1ヶ月に1度ですが皆様と一緒に色々意見を聞き、また諸先生方のマンスリーサロンの講演を楽しみながら聞いていただき喜んでおります。これからはますます先生方をお招きしてよいお話を聞かせて下さい。今後とも皆さんのお智恵拝借よろしくお願ひします。

■小倉久仁子さん（モードサロン）

街角に枯葉をちらはらと見かける今日この頃。いかがお過ごしですか。早いものでお店を開いて九年目。秋、冬の新コレクションも終わり今は御説に追われている毎日です。今年から新しく、クニ・オリジナル作品を試み、何かと意義ある仕事をと意欲に燃えておりました。それに6月13日には上野文化教室を開室（琴曲、日舞、茶華道、木彫、フラワーデザイン、洋裁）洋裁クラスでは私も指導しております。



今後ファッション感覚、知性教養度の高い神戸っ子の女性に少しでも役立てるようにファッション作りを努力していく覚悟です。

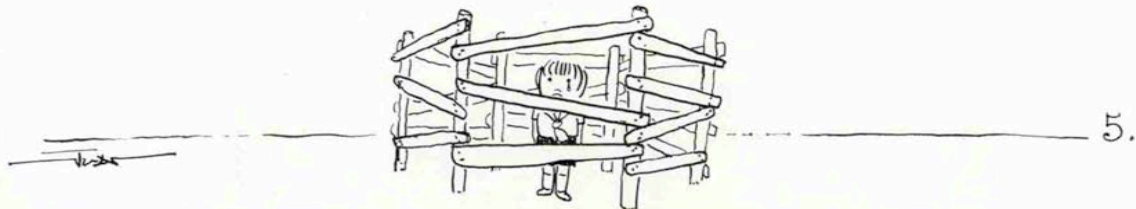
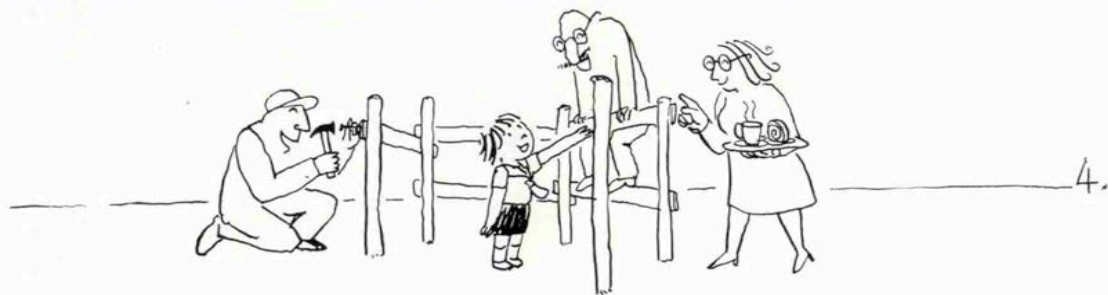
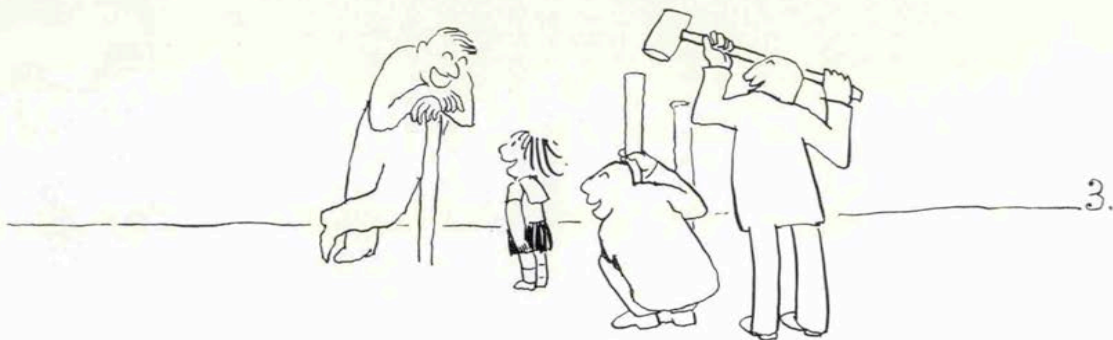
11月マンスリーサロン

時/11月12日午後6時 場所/セクタープラザ11階H室 テーマ/78春・夏のファッションの傾向
 講師/大内順子さん チケット/2000円
 永遠の美少女のような大内さんを再び講師に、最新のニュースを。
 77K.F.S. X マスファッションパーティ
 ファッションショー（78KOBエキストラクター）
 ダンスタイム、ファッションゲームで、イブの宵はファッションナアルを仲間と楽しい一刻を過ごしてみましよう。
 時/12月24日午後7時～9時 場所/生田神社会館
 チケット/5000円

ママゴンにささげるバラード^⑩
かわいそうなアム

岡田 淳







淀川 長治

映画評論家

わたしの映画手帖

テレビの「ルーツ」から祖先さがしが始まっている。私の御先祖の七〇才の御主人が祖先をさがしつきとめてヤマモトカンスケでしたとカンに打たれた表情でふるさとのお寺の古い系図のコピーを持ちかえられた。

アメリカ人は寄り合い世帯だから「ルーツ」は面白からう。オランダです。イギリスです。イタリア移民です。聞くときぐその返答がくる。

日本人はまずみんな日本人だから「ルーツ」となると誰のなにがしとなる。西柳原の私の家にも兵庫戦争で豊臣秀吉が合戦中に逃げこんできて庭にかくれて一命を助かり御礼のおすみつきを頂いたという伝説がある。のちにそのおすみつきを楠公なかつらさんの展示会に出品したら盗まれておわびに生きた鶴を三羽さんいただいて、それをカナアミで庭にかつていたところお手伝いの女の子の目を突いたとかで動物園に三羽とも貰ってもらったというまことしやかな伝説がある。しかし祖先はきつと兵庫の港の貧しき(いちぜんめしや)だったのだからと私は思っている。

×

ルイス・ブニエルの「自由の幻想」(一九七四)を見た。映画界のピカソみたいな人で、けつたいな映画をつくる人だがそれが見ていてちつともけつたいなと思わないで感心するところがブニエルの腕である。

スペインの富豪の息子で、カトリック教育を受け、学校は坊さんの学校で優等生。このルイスのちにスペインのシネクラブ運動のリーダーとなつて、やがてサルウ

アードル・ダリたちと知り合つてシニールレアリズム運動に走り「アンダルシアの犬」(一九二八)をダリと共作した。これもけつたいな映画でグラッド・ピアノを弾いていると突如その上に牛か馬の死体がドスンとのかつたり、西洋カミソリで人間の目をえぐりかけたたりであきれた映画だったのに感覚の(シヨック)のすさまじさはただごとでない。この人にも「哀しみのトリスターナ」や「昼顔」などもあるが「ロビンソン漂流記」(一九五二)には涙があふれた。ロビンソンの孤独がたまらなかつた。「パピヨン」にも孤独があつたがこちらは自由への執念そのバイタリティがぎらぎらしていた。ブニエルのロビンソンの孤独は枯かれていた。

さてこのブニエルの「自由の幻想」は、彼の前作の「ブルジョワジーの秘かな愉しみ」につづくファンタジイでアツと驚く感覚のシヨックだ。

招待客が食事のテーブルにつく椅子に腰かけるとき女はおしりをまくり上げ男はズボンを下ろす。食卓をかこむ椅子はおといれの便器だった。

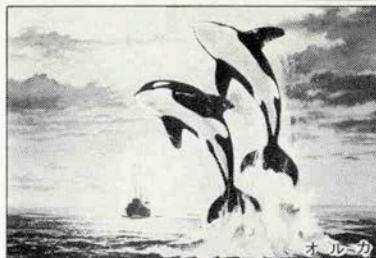
一人の男が夜が更けても寝つかれない。ふと部屋の中を見るとダチヨウの子が自分を見つめていた。けつたいなシーンばかりが出てくるのだが、これが面白い。そしてこんなシーンをジャン・クロード・ブリリアリやモニカ・ビツティやパスカル・オードレやミシェル・ピコリがカメラの前でブニエルの指導の下にワン・カットごとしんげんに演じていることもまた考えると面白い。

×



SLAP SHOT

がらの悪い映画「スラップ・ショット」



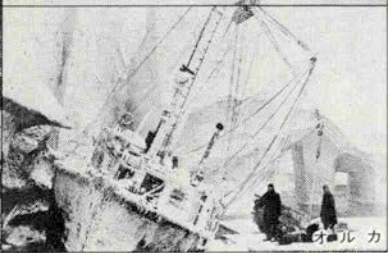
オルカ



自由の幻想



スラップ・ショット



オルカ

正月に「オルカ」(一九七七)というのが出る。オルカとは鯨イナイカとイルカとサメを合せたような巨大シャチ。全長十五メートルともいう。これが人間に近い頭脳をもっていて、夫婦愛もこまやか。そのメスを生けどったところそのメスは船上でぶんべんして赤ん坊を生み落とす。メスも子も死ぬ。このメスの夫が人間への復讐だ。(捕えた男)を海から見て知って(その男)をどこまでも追ってねらって北極圏内まで追ってゆく。オルカはイナイカ。恐れる人間。映画もいろいろとその企画に苦心する。これはイタリアのデイーノ・デ・ラウレンティス製作のアメリカ映画。

×

三流アイス・ホッケー・チーム映画「スラップ・ショット」(一九七七)。この題名は氷上をすべるタマをカチンと棒で叩きつけるその叩きつけ。ガラの悪い試合でゲームよりも相手と殴る蹴るの喧嘩。実はスタンドの客もそれが楽しみ。一人の選手が「そんなの止めろ」と一人はなれてすべりながらヤケクソのストリップをやり出した。スタンドの前には女の楽団がいて入場式にはブラス・バンドでマーチを演奏するのだが、一人の選手のストリップを見るや大喜びで、この楽団いっせいにストリップ・ショー・リズムの演奏をやりだした。スタンドの女の客たちは大喝采、カメラを向ける。ハンカチでオペラ・グラスのレンズをふいてから坐り直してそのオペラ・グラスで見物だ。

ガラの悪い映画もいっぱいあるがこれくらいガラの悪い(男の映画)も珍らしい。監督が「ステイニング」のジョージ・ロイ・ヒル。主演がポール・ニューマン。選手たちが走るバスの窓からいっせいにシリまる出し、それもズボンを下ろしてピンク色のシリをまる出しの光景でそのバスは走る。会話のきたなさはあきれるばかり。そしてこの原作脚本が……おおなんと三十一才の女のシナリオ・ライター(ナンシー・ダウド)。馬鹿にしている。男のメンツまるつぶれ。

女体百景

〈64〉 妄想の女

細川

董たかし

〈文とえ〉

家にカギがあるようにヨットハーバーにもカギがありおまけに門限まである。午後十二時を過ぎると管理事務所のおじさんが金網の扉に施錠して帰ってしまうのだ。

三才、音楽家の彼は自分の年令に合わせて三才のヨットのヨットを持っている。今はレストラン経営者だが根っからの芸術家気質は抜け切れず、ヨットに男の夢とロマンを托している。だから結婚後も週に一度は不意にヨットに外泊するのである。

船はひとたび岸を離れると治外法権だ。おまけにヨットハーバーの門限を過ぎると、へいを乗り越えてもしない限り、いかなやきもちやきで妄想癖の妻君といえども追いかけてはこれられない。月光値千金ノうるさい妻のもとを逃れてヨットに一夜の夢を結ぶ味は格別である。

商売柄、特にロマンチックな海辺の店のムードを求めて集まってくる女客へのサービスは店内はもちろん、店が終ってから深夜の洋上に及ぶことも少なくない。

「お客に私を妻だとはなかなか紹介してくれないのよ」と、目のクリクリした美しいスマートな彼女は涙ぐんで私に訴えるのだ。なるほど彼が私に彼女を紹介したのは店内ではなく店を出ようとした時だった。

「べっぴんでっしやろ」

と、彼は妻を紹介する時につけ加えることにしているのだが、

「わざとそうつけ加えるんです。日頃やましいこととしてるから……」

と、彼女はちよっとした彼の一言にさえ、妄想の種を見つけるのである。

彼女の話では店には秘密の通路があって、密会がばれ

そうになるとその通路から駐車場へ逃げられるようになっていくという。

「このまじめな大学の先生だけは」

と信じていた紳士が、その通路を使ってから、彼女は男性へのすべての信頼を喪失し、彼女の妄想は本格化したというのだ。

「道理でお宅の店には女の子いませんなあ？」と尋ねると、彼女は平然と、

「レストランは男の給仕がいればいいんでしよう？」

と答える始末。旦那が横合いから、

「いや昔は沢山美人がいてたんですわ。しかし皆、こいつが追い出してやめてもうたんですわ。気がついたら、こいつだけ残ってまんねん」と註釈を加える。

実際、彼がちよっと冗談半分に若い女客の手の甲にキスしただけで彼女は旦那の頭をどつくほどののだ。

さて、彼女の妄想はというと、うたたね後や、夜明けに起こりやすい。

夢かうつつか、うつつか夢か？

彼女が店へ入って行くと、夫が、店の可愛い女の子とベチャベチャして、

「おれはこの娘と結婚するぞ」

と宣言する。そこで目がさめる。ほんとうかしら？と、彼女の妄想は始まるのだ。

彼女の妄想のおかげで、いつ毒を盛られるかわからない。だから旦那は

「家で飲んだり食ったりするのがスリルでんねん。特に朝御飯が一ばんこわい。皿の端の方へいったら味が変わ



てるんと違うやろかと思つて……。そやから週に一日はフルコースで家庭サービスすることにしてまんねん」とおびえているのだ。

しかし、あの日だけは、夕方店からの電話でのっぴきならない用事だといって、フルコースを終わらないうちに彼が出掛けて行ったまま、夜中まで帰ってこなかった。

ちようど満月の夜だった。

ヨットにはフランス人の技師が設計した寝心地のよいダブルベッドが左右に二つもある。

今頃はひよつとしたら、月光の下、いかりをおろしてあの例の彼が最近肩入れしている美ほうの歌手と？

からみ合う二人のあられもない裸身。

やに下っているが、しんけんな夫の顔が彼女の股間に迫り、ヒゲが彼女の白い内ももをくすぐる。

リズムカルに打寄せる大波がヨットを大きく傾け、二つの裸身は、その度に一層強く固く結合して行くではないか。

妄想は、一人寝の妻の頭の中にとめどなく広がって行く。

もう辛抱できないわ。可哀想な私。あっ、フルコースのデザートを私の代りに彼女をえらんだんだわ。間違いない。彼女のほほを涙がグツシヨリ漏らしている。

その時、玄関に物音が聞こえ、飛んで行くと、四つ這いになった夫が左足をおさえて、

「痛い！ 痛い！」

と泣かんばかりにうめいている。

△浮気の照れかくしにまた芝居をしているのだ。私とのデザートをのがれるために。▽

そう腹の中で叫んで、彼女は夫に指一本ふれずベッドにもぐり込んでしまった。

おかげで彼は松葉杖を3カ月もつきつづけねばならなかった。

△足がよくなれば、彼がまた浮気をするかもしれない▽
という彼女の妄想のおかげで。

ヨットハーバーのへいを乗り越えて真夜中妻とのフルコースのため我が家へ帰ろうとした彼のがとは、ほんとうに複雑骨折していたのである。

妄想の女は、しかし、まだその骨折の理由を全面的に信じてはいないのだ。



躍中のピアノスト安藤義則を新しく迎えたハウストロオが演奏中だが、若い人たちもグッと小粋に楽しませようという雰囲気。



ダンスも出来るのよ

★チャイニーズバブ
GENからニハオ

阪急六甲の山側の住宅街にちよつと変わったバブ。中華料理に中国のお酒、紹興酒でニハオという気分になりそう。ウイスキー、ビールももちろんあります。パブとは違うもの、お食事に来る家族連れも多いとか。台湾ぞうすいなどは昼食の人気者です。

また週一度テレビでお馴染みの程一彦先生の料理教室があります。

午前11・30午後10 灘区篠原本町1丁目7-1メーブル六甲 電話882-4520
ちまき300円、台湾ぞうすい400円、紹興酒ボトルキーブ2、000円。



マスターの大島さん

★西神戸の夜景も

いいもんだ！
エレベーターで25階まで

ビューンと登るとビスタラウンジブリンバル。またオープンして1カ月と少し、でもお馴染みのブーンの味が楽しめます。昼間は喫茶



オープニングパーティー

店夜はバブレストラン。昼の街並、夜のネオンの街、ともかく高い所からの景色はいいものです。

一階下の24階には本格ステークレストランブリンがあるから、とても便利。

「ブリンバル」新長田店
イブラザ25F 喫茶・スナック 午前10・30
午後4・30 バブレストラン 午後5
午後11 メンバーズクラブ「サロソ
ルフェ」 午前10・30 午後11
オールポトルキーブ4、000円

★サントノール北野店に

ラグジュアリーレイが音楽とお酒が楽しめるサントノール北野店では、活

そのサントノール北野店

に、あの「ラグジュアリーナイト」が大ヒット中の歌手しばたはつみが来演。神戸ではホール以外で唄うのは初めてという彼女、サントノール北野店ならではの聴きものになりそう。クリスマス・スペシャル・ショー12月12日(月) ビジターの部/6時 一五、〇〇円 メンバーの部/8時30分二、〇〇〇円
出演/しばたはつみ&サウンドインSレギュラーバンド、森哲也、玉井英二トリオ

★岐阜でも大当りの風見鶏

フック神戸店が9月22日岐阜にオープンした高島屋に「風見鶏」という名のしゃぶしゃぶレストランを開店手頃な値段で神戸の味と雰囲気を楽しめるとあってオープン早々満員盛況。

家族連れのカップルが多く、一日中満席で神戸からスタッフを動員しての大忙しとか。風見鶏ブームは神戸から全国に広がります

●神戸うまいもんとドリンキング

新和食処

神戸/あじびる三宮

阪急三宮駅前山側
電話078(332)3456

どんなにおいしいものに挑戦したい方におすすりめしたい店が、阪急三宮駅前山側に出現。その名は味の「あじびる」(本岡厚二社長、今川健治店長)8階建のビル全館が、日本風だけドモダンなインテリア。非常にわかりやすく各階が案内された建築物。特に4階の串の館は、神戸の異人館ムードをうまくキャッチしたフロアで、異人館なベトか、異人館串焼きなどはユニークな味。1・2階



は、和洋食弁当や気軽な一品の和食。5・6・7階は、源氏なべや味なべなど鍋もの、会席、鉄板焼など機歌、個室、小中広間の宴会向き。地下は「居酒屋」といろいろ席で深夜まで酒を五味焼きで味わえる。

深まる秋……
落ち着いた雰囲気の中で
老舗の味をご賞味下さい。



鮎

鮎の又半

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話 078 (331) 0935

潜り戸を通して
“花”のおふくろさんの味を



●こん立て●
とろろ飯定食
お好み定食
天ブラ定食
おつくり定食
たかひり弁当
やよいの里
花そうめん
茶そば山かけ

和風季節料理

花

11:30A M~8:00P M 月曜日定休
さんプラザ地階 ☎331-0087

お慶びの日のお祝いに………お人形を。
お友だちへのプレゼントに………お人形を。

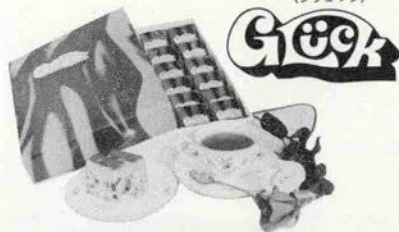


おもちゃの **カメヤ**

三宮方面でのお買物は… 元町方面でのお買物は… 神戸駅前方面でのお買物は…
 さんちか店 ☎391-4045 元町店 ☎331-0090 サンこうば店 ☎351-6002
 三宮店 ☎331-4969 パンプウ店 ☎391-0768

しあわせを呼ぶお菓子

(グリュック)



新発売! グリュック〈幸福〉

北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市灘区熊内町1-8(新築美術館裏側) TEL.221-1164
 ■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸デパート・元町店

オリエンタル レディスクラブ

会員募集中

年会費：お一人10,000円(ホテル利用券5,000円を含みます)
 割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
 での宿泊、飲食の際サービス料10%はいただき
 ません。その他いろいろの割引がございます。
 特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ：オリエンタルホテル内
 オリエンタルレディスクラブ事務局
 ☎(078) 331-8111

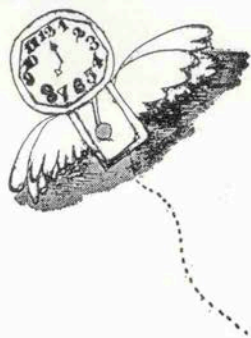


ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL (341) 7290

神戸百貨会
だより



★田荷軒・永田耕衣個展

具象人間「五人展」と
企画展が目白押し

永田耕衣——雅号「田荷軒」、俳壇の重鎮で本年喜寿を迎えられる。の俳画、書展が元町画廊で11月1日～9日開催される。「字は手の芸でなく面の芸である。人を見て笑おうと頓着しない」と言う田荷軒氏。その天衣無縫の域は、書は人なりを表わずにびつたりのようだ。「77才、今日までの作家自身、その人を見ていただけるだろうと思う」と廊主の佐藤藤さんとも張り切っておられる。

また5人の作家それぞれの個性のぶつかり合いで人気の「五人展」も第八回を迎え11月13日～20日に開催される。中西勝、西村功、鴨居玲、松本宏、河野通紀の今年一年の決算が発表されるわけで、こちらも楽しみな企画だ。

元町画廊 331-12359

★ひと足早く、来春夏の

サノヘキャピタルシヨウ
パステルカラーやポリエステルの薄手で軽くて着易そうなワンピースがリズムに乗って……10月6、7日ヌーベルサノへで行なわれたキャピタルシヨウIは早くも来春夏もの。神戸のハイセンスを代表するサノへだけにオーソドックスな中にもひと味違う良さを持った服が揃っていた。DESABRE, FRANCOISE DE SARBRE, GIARDINO, P ECARTEL, MARCVAU G HAN とため息のでる高級



ページュのドレス

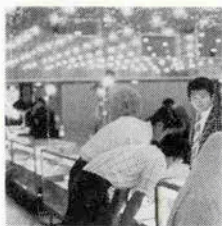
プレタに加えて、11月10日・11日にはキャピタルシヨウIIとしてアザロの商品などが到着し、華麗なファッションシヨウがまた展開さ

れる。ファツシヨンに目のない方へ、神戸センスの再確認を。

★77田崎真珠

新作コレクシヨン

田崎真珠では「風のよう」とタイトルし、9月12日～14日オリエンタルホテルで新作コレクシヨンの数々を展示。風のような自由さと自然の美しさを生かし



ガラスケースをのぞきこんで

た独自のデザインに、つけた人々もウツトリ。世界的なジュエリーアーティスト、メリー重富、白神真美、福留洋美、河野肇さんらの個性あふれる作品はさながら芸術品のよう。

★UCC2カップ

プレゼント

ハガキにUCC100%PURシール貼って出すと、毎週10000人にオリジナルカップがペアーであたります。住所氏名年令もお忘れなく。

神戸中央郵便局私書箱100 〒650-91
UCC2カッププレゼント係

●シヨップトビックス

★チョコレートが新発売。ひと口で食べられるミルクたっぷりチョコレット、シヨコラオレ(1個20円)1個ずつ買えるのも嬉しいし10個入りはジェセフィン、15個入りはグイネットと愛称がついているのも何となく嬉しい。391-2146

★風見鶏が神戸を賑わしています。亀井堂本家では風見鶏せんべいを発売中。今までの瓦せんべいに風見鶏の印を押したものは同じですが模様が違う瓦せんべいで、とっても楽しいですね。1箱12枚入り250円から。331-1616

★辛党に嬉しいお知らせを一つ。ニューポートホテルの二階のラウンジバーで11月1日から12月の末までスコッチフェアと名を打ってビッグTブラックが1,800円で飲み放題です。ポトルキープも5,500円と格安。秋の夜長に飲み過ぎちゃいそう。231-4171

★食べ物美味しい季節になりました。おすし、てんぷらの架祭のてっちり、鯉ちり、魚ちりをつつきながらお酒を一杯というのはいかがでしょう。予約をしておけば魚のみを漬をおみやげに持って帰れます。331-5772

★宝飾のミキモトの社内報「さろんど・みきもと」が、全国PR研究会主催社内報コンクールで奨励賞を受賞しました。創刊は昭和37年という歴史あるもの。331-1433

★今ちょっとしたブームです。お星のアクセサリーが登場しました。全部運送の琥珀とか、ネックレスで2万円前後。イヤリング、ブレスレットもあります。331-6135



★第3回井植文化賞

受賞者表彰式

10月14日(金)午前11時から第3回井植文化賞の受賞者表彰式が塩屋ジェイムス

山の井植記念館で開催された。今回受賞者は文化芸術部門―横井和子、科学技術部門―土田広信、社会福祉部門―神樹の会、吉田耕三地域活動部門―宮町文化協会、植木昭、報道出版部門―落合重信の各氏が受賞井植記念理事長井植祐郎氏から表彰状、賞金各二十万円、ブロンズ像が受賞者に贈られた。表彰式終了後



選考経過を話す畑専一郎氏

受賞者を囲んで「舞子ビラ」で和やかな祝宴が開かれた井植文化賞はこれで3回

目の賞が贈られたが、非常にユニークな賞として位置づけられ、幅広い文化分野で貴重な賞として話題をあつめている。

★第31回「二紀展」

受賞者決まる



恒例の第31回「二紀展」受賞者決まる
小西保文さんが上野公園東京都美術館で10月10日

(月)から10月27日(火)まで開催された。開催に先立って二紀展の受賞者の表彰が行われた。今回の二紀会兵庫県支部の関係者は次のとおりである。

「文部大臣賞」小西保文
「同人賞」井尻源一、「二紀展奨励賞」吉多弘子、「委員推挙」鹿間厚次郎、「会員推挙」犬童徹、「会員推挙」大原富夫、「同人推挙」羽多悦子。この第31回「二紀展」では絵画約900点彫刻約140点が展示され

ている。なおこの「二紀展」は名古屋、京都、大阪、広島、福岡、浜松、札幌の各都市で順次巡回される。
★情緒ゆたかに
生田神社「薪能」

去る9月20日、生田神社秋祭りの一環として本殿前の特設能舞台で薪能が催された。当日は快晴の夜空に三日月が涼しげな姿をあらわし、松蔭とともに情緒豊かに繰りひろげられ、日没とともに火入れ式となり、一段と興趣があがった。

演能は「小細曾我」を流井義信・田中吉正の両師が続いて藤井楽人師の「班女」が舞われ、幽玄の世界が夜空に絢爛と広がった。そして狂言「太刀奪」のあと、「熊坂」を藤井徳三



「熊坂」

師が半能ではあったが豪快な演技をみせ、満員の観客を魅了させた。

★神ちゃんよかったネ!

本誌の「動物園飼育日記」でお馴染みの王子動物園学芸員、亀井一成さん著作の「ぼくはチンパンジーと話ができる」がこのほど、日本動物愛護協会の文部大臣賞とイギリス婦人のレディ

誕生日
ありがとう
運動



「ちえおくれの話」購読のすずめ誕生日ありがとう運動では、ちえおくれの問題の社会啓発の一環として、神戸大学教授伊藤隆二先生の筆になる啓発図書「ちえおくれの話」を、昭和四十四年九月に発行しました。

本書は、中学生でも読める平易な啓発図書として類書がなくとても好評で、全国各地に頒布してきました。この十月に第六版を発行し、発行部数も五万冊をこえました。この機会に本書の紹介をさせていただきます。

- 内容は
- 一、ちえおくれとは何か
 - 二、ちえおくれの原因のいろいろ
 - 三、ちえおくれを早くみつげよう
 - 四、ちえおくれの相談機関
 - 五、ちえおくれと社会の人たち
 - 六、ちえおくれの福祉・教育機関
 - 七、ちえおくれを正しく理解するため
 - 八、道案内 となつています。
- A5版 百八ページ
頒価三百円 送料百二十円
今まで

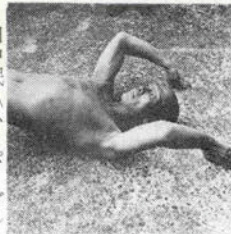
- 中学生・高校生・主婦の購読
- 大学・短大・保専などのテキストに
- 民生・福祉関係・ボランティアの研修に
- PTA・母親教室で
- 教員・教育委員会での研修に多くの方から愛読されています。
- みなさんませむと愛読ください。
- 誕生日ありがとう運動本部
- 神戸市芦屋区御幸通八の九の一
神戸国際会館一階の郵便局の隣
電話二五一八一六一内線三六

竹田洋太郎氏の「アメリカ食べ歩き」、畑専一郎氏の「コウベのファッション都市化運動とK.F.R.について」、石毛直道氏の「世界の国々の米の食べ方」の講演の後、質疑応答が繰り返された。確実に地道な活動を続けていこうと意欲満々である。11月の活動は韓国へキムチの本式漬け方を20名ほどで勉強しに行く予定。年内に会誌も発行される。本部/生田区中山手通2丁目98-1 第二あなもん亭ビル・ル・サロメ内 電話392-1255

★田中浜「舞態」

摩耶山上と津高美術回廊で道路や公園、あらゆる建造物の周辺に、田中浜は「舞態」(肉体を駆使して自由

に語り訴え空間にいとむ裸体舞踊)と見物人が名付けた肉体行為を3年間100カ所で演じたアーチスト。



肉体即芸術也

田中浜「ハイバードダンスプロジェクト」1824時間をテーマに全国縦断神戸公演は、11月4日午後9時より摩耶観光ホテル(車不可・ケールカーP M8時30分迄開かれる。一泊二食付¥3800PM9時30分公演10時30分シンポジウム)

ジウム。

11月5日は午後1時〜3時迄、西宮市高木西町38津高美術回廊(津高和一郎)の芝生の空間がその舞台。

お申込みは月刊神戸、子まで 電話078-(331)2246 係小泉。他に京都・大阪も開かれる。

★大谷記念美術館で

小磯良平展

西宮の大谷記念美術館に新館が増築されたのを機会に、小磯良平展が11月27日より12月20日まで開催される。神戸に生まれ、神戸の土壌で育まれてきた小磯画伯の作品100点。小磯芸術にこれだけ数多く接することのできる稀な機会だ。愛読者20名様「小磯良平展」にご招待致します。編集室まで。先着順。

花時計



心暖まる文化賞

「ともしびの賞」

兵庫県では昭和50年から「ともしびの賞」という文化賞を設定した。今年で三回目の受賞者表彰式が開かれたが、兵庫県都市部の受賞者はもちろんのこと美方郡、城崎郡佐用郡、神崎郡、宍粟郡

水上郡、三原郡、津名郡川辺郡といった郡部での受賞者を含めて18名の入賞者が兵庫県民会館に集まり、10月11日午後2時から「ともしびの賞」贈呈式が行われた。

賞を贈呈する坂井兵庫県県知事も受賞者一人一人の手を握り深く頭をさげ「有難とうございしました」と感謝の言葉を贈った。望月秀雄兵庫県会議長もあいさつのなかで「伝教大師、最澄の言葉に、一隅を照らすという言葉があるが受賞者の皆さん

こそ人間の生き方を示されるもので、本当に胸つまる想いがする」と結び、選考委員を代表して小林武雄氏も「ほんとうに素晴らしい賞だ。皆さんの灯で兵庫を、そして日本を、いや世界を照らしてほしい」と語った。

「文化賞」もいろいろなスタイルのものがあるが昭和50年のスタートの時富田碎花氏が「こんな心暖まる賞はない」と手離して喜ばれていたことを改めて思い出したことが

△Y△

●KOBE POST

★作家の島尾敏雄さんが谷崎賞を受賞。またこのほど茅ヶ崎へ転居されました。〒253神奈川県茅ヶ崎東海岸北五丁目一四〇二〇
★神戸大丸美術回廊で、石坂春生「女のいる風景」新作油絵、デッサン展が11月3〜8日まで開かれます。

★女流書家望月美佐子の鳳凰社10周年記念展と望月流創立の式典と記念パーティが11月11日(金)生田神社会館で開かれます。又12月水曜から毎週NHK・TV婦人百科で、「実用書」を朝10:30〜30分間を放映。
★DJの小山乃里子さんが深夜放送に初登場。OBCの青春最前戦(夜11:15〜1:00迄)又毎日放送も毎水曜夜8:00〜9:30)ミュージックマガジンにいずれも年下男性ナナト。

★11月5日に新井満3枚目のLPキングより発売。出会いから別れをテーマの曲が12曲。名付けて「アデーレ」新しい神戸の唄を聞いてください。人気曲「ワインカントリー」のときめき。他 ¥2250 DJはOBC日曜の午後7:00より1時間。アラマンの飛んでジョッキーです。

★花柳芳一さんと花柳芳恵一子さん親娘の「芳一の会」が、10月27日PM6:30東京の国立小劇場で「木賊」「喜撰」「翠々」「安達原」を芸術祭参加として開かれ、★コーベパブックスから分離。独立した南桐書房の新住所は〒652神戸市兵庫区荒田町四丁目59番地11月には「ガルフエッグ」(シネマ)ヴェイエル短編小説集)を刊行。
★エイエルフランズ国営航空会社神戸営業所(石丸誠一営業所長)が9月1日より事務所移転。〒650神戸市生田区三宮町1ノ1交通センタービル6F 電話078(321)6003
★K・F・Cのデザイン・真殿恵津子さんが阪急西口店を、中山手に移転新装開店。¥6500山手1ツクハエツは、生田区中山手1ノ6 電話221-6234

fresh!

フレッシュな製品をつくりお届けするのが私達の役目です



取扱品目

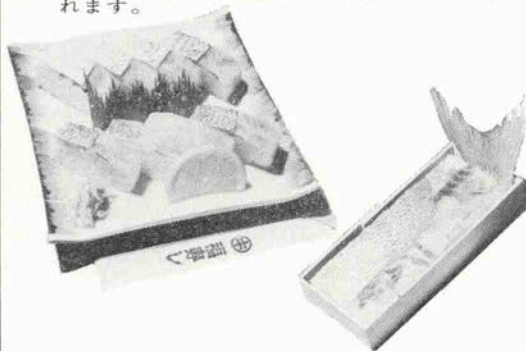
牛乳 ソフトミックス
生クリーム コーヒー用クリーム
ケーキ用クリーム 各種アイスクリーム

株式会社

六甲牧場

神戸市灘区篠原南町6丁目1-25 ☎神戸078(801)6000(代表)

な事がうべえしく
げ行人い食迎すて
しや本とたを阪せ
惜句日」き夏大さ
を節たいてらたじ
季。いたれかい感
四すてべされきを
なでれ食愛この
かの離がに。酢味」
の豊をし人うの味
のべ本す本よあ本
本食日お日し、日
日だ、「らでて「
、んに「からつり
はこ日音昔かたは
しりる同、だあやす
す盛あ口もの、ま
おくの異のもるは、れ



■福寿し名物紹介／雀ずし(小鯛の押しずし)

腹に飯をいっぱい詰め、ヒレをちよっと張った姿が雀の飛ぶ形に似ているので雀ずしといわれる小鯛のおしずし。明石の沖で其の日に漁れた活小鯛と包昆布は稚内産の白板という材料も吟味されており、この鯛の赤さを残したまま酢でしめる加減が板前さんの苦勞のポイントだそう。酢じょうがを上のにせて、かるく焙って食するのもおいしい召し上り方です。一人前800円、お持ち帰り用折詰850円。

古いのれん うまいすし

創業
50年

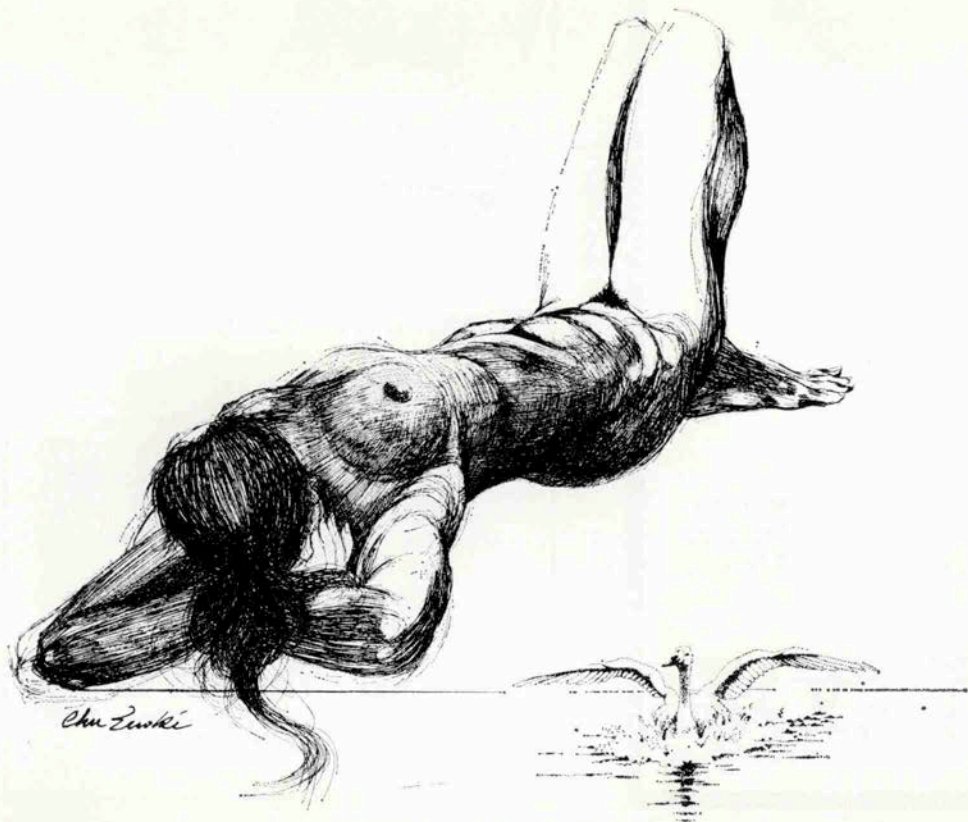
福寿し

新開地本店 TEL 575-2907・2991
さんプラザ店 TEL 331-2934
さんちか店 TEL 391-5473

□連載小説／心象風景Ⅲ▽

沈める日

秋吉 好
え・榎 忠

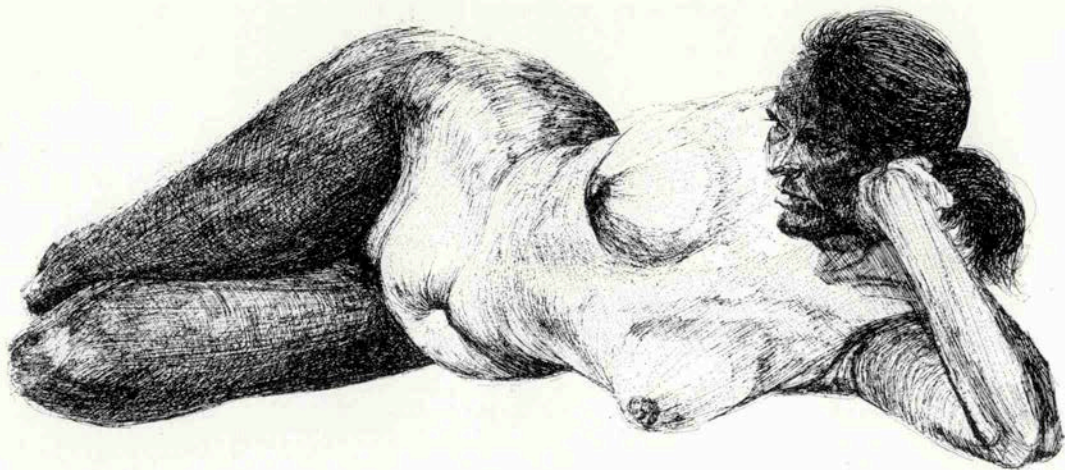


健次は人造湖にボートを漕ぎ出した。所々色づき始めた周囲の低い山々が逆さまの影を湖面に落している。健次がオールで水を掬うたびに山の姿がくずれた。ぼくは牛を追ってこの山の中腹辺りまで来たことがある。大きな白鳥を模した遊覧船が発着場を出た。長い首の付け根や羽根に開いた窓から観光客の顔がのぞいている。ローボートやペダルボートやカップボートが遊覧船を避けて四方に広がった。半透明で青々とした水は太陽の光を吸収して下にあるものをすべて隠してしまう。湖の底は暗闇が支配していて外気が小さく白く丸く空に点っていることだろうか。それとも、空を飛んでいる飛行船かなんぞのように船底をさらして遊覧船やボートが谷間の空に浮かんでいるのが見えることだろうか。日照りが続いて水位が下がり、湖のぐるりに幾重にも層をかさねて赤茶けた縞の帯が入っている。急角度で湖に落ち込む山肌に立ち枯れた木々が杭のように刺っている。ぼくは、あの日、昼前に十キロほど離れた作業場から呼びもどされた。——お前の母ちゃんが気が狂れたぞ。ぼくはそれを伝えに来た村の口の玉木が言った言葉を中心に繰り返しながら山道走着帰った。大白鳥の遊覧船は瓢箪の形をした人造湖の一番広い下の湖をゆっくりと巡る。健次の額に汗がにじむ。ペダルボートが健次の前を通り過ぎる。ぼくは汗をぬぐいながら山道を急ぐ。村へ通じる一筋の道が川に沿って続いている。峠を越えとやや広い水田が山裾にひろがり、谷に入る扇状地に部落があった。道はその中をくねくねと続いている。昔はそれでも奥山越えに他国へ通じる街道になっていて、道しるべがポンプ小屋の前に立っていた。カップ型のモーターボートが軽いエンジンの音を響かせながら上の湖に通じる山の間から現われた。遊覧船はダム付近まで行って引き返し、その山の間に入って行く。堰堤が何段も小さな滝となつて流れる川沿いの口に玉木の家がある。二十戸ほどの藁屋根が川の両側に点在する。村の中ほどの橋の端に年寄りや女が立っていた。ぼくの姿を見ると、みな一

様に動揺したようだった。かれらはぼくをじろじろと見詰めた。そこには明らかに敵意がこもっていた。ぼくは村人の取りつく島もない態度におどろいたが、無関心を装われることには慣れていたので、道をふさいでいる村人の後ろを潜り抜けようとした。しかし、そこに村役の山上爺が立ちふさがった。山上爺はぼくを威圧するように黙って睨んだ。ぼくはそれで村人が何を思ったかを察知した。すると、母のことが無性に心配になった。——母はどこにいます。母はどうしています。ぼくは山上爺に聞いた。ぼくは村人の厳しい視線に身をさらす。——母親が何をしたかはお前の胸にきいたらよくわかるだろう。山上爺はそれとなくほめめかす。——お前の母ちゃんはお前に恋い焦れて家に火をつけてしまったぞ。煙草の脂で黒くなった歯抜けた口をあけて、奥の玉木の老人が下卑た声で囁いた。健次は静かな湖面をまっすぐ横切り遊覧船が入って行った狭まった湖へ漕ぎ入れた。ちょうどくびれた瓢箪の胴のように、湖は細長く山合いにのびている。遊覧船の姿はもう見えなかった。ぼくは村人の容赦ない視線を背中にあびながら歩いた。高い崖の上を自動車が走る。崖の中ほどにすでに赤く紅葉した楓があった。健次はしばらく手を休めた。部落をすぎると、両側に高い山が迫る狭い谷間を溪川が勢いよく流れて、急な山道になる。母とぼくがかれらが言うほどに悪いことをしていたとおもわれないけれど、いつも母が可哀そうな女だという思いがぼくの胸にあった。ぼくと母が木小屋に離れて暮らすことが悪いといっても、そう仕向けてきたのは他ならぬからではなかったか。狭小な谷間の村で、しかも村人との付き合いを絶つた母が気が狂れたとしても、むしろそれは当然のことであった。そして、ぼくはその母に育てられたのだ。遊覧船が山陰から現われた。先に行った大きな船ではなかったが、それを小型にしたようなやはり白鳥を真似た船だった。翼の間がデッキになっていて、子供がさかんに手を振ってきた。ぼくと母が住んでいる木小屋は村から一キロほど奥

に入つた傍道の谷にあつた。ぼくは神戸からもどつてきた二十才をすぎたばかりの母がぼくを抱えてどうして辺鄙な山村のさらに人里離れた木小屋に住むようになったのかは知らなかつたが、部落の中ではほとんどが親戚だと言つてよいほどのな、母は誰とも付き合ひはせず、営林署の植林を手伝つて暮らしていた。ぼくは小学校に入つたところから叔父の家の牛飼いをするようになった。健次はゆつくりと流れに抗してポートを進める。お寺の裏山だつた辺りに、褐水のために水中に隠れていた木が見えている。それらはすべて泥をかぶつて灰白色のスプレーをかけた造花のように青い水面から突き出ている。健次はそんな林の中にポートを漕ぎ入れる。健次は手でふれることができるとは思つたこともなかつた杉の梢をふしぎなもののように触つてみた。この下にずっと何十メートルも木の幹が続いていることだ。——そんなものを返してしまひな。——ぼくが牛飼いでもらつたお金だよ。——母さんはあいつらの憐みなんか金輪際受けようとは思わぬ。——働いたのだからもうのは当然だよ。——あいつらの金にはちがひないだろう。捨ててしまひな。母さんはいらないよ。左右の山がわずかに蛇行しながら次第に遠ざかつて視界がひらけてきた。溪川はますます深く激しく流れる。くねくねと曲つた山道は谷の上に出る。杉木立ちの中から滝の音が聞こえてくる。母がどうなつたかという不安だけがぼくの心を占めていく。少し奥まった高台にあるお寺の森をすぎると、なだらかな斜面が三方にひらけ、段々畑とその上に整然と並んだ杉山がずっと上まで続いている。カップ型のモーターポートが下からやつて来た。四人の若者が乗つていた。真中のテーブルに缶ビールや酒ビンが置いてある。赤い顔をしたリーゼントの若者が陽気な声をかけてきた。しかし、健次は黙つてポートを漕ぐ。風のとつてポーターブルラジオの歌謡曲が聞こえてきた。女性歌手の甲高い声が恋の終わりを熱唱する。木小屋のある谷の入口にポンプ車が止まつていた。何よりも山火事を恐れて、

村には山奥には不似合いなほど立派なポンプ車があつた。白いホースが石ころだらけの道を蛇のようにどこまでもびている。ぼくは木の燃える匂いを風の中に嗅いだ。母が火をつけたのは本当だつた。どうしてだ、ぼくは心の中で叫んだ。しかし、ポンプ車のエンジンは切れているし、ホースも濡れていない。人も誰もいなかった。上の湖を一周した大白鳥の遊覧船がもどつてきた。上の湖に入る少し手前ならなにか岸に一人の女が立っていた。女は遊覧船に向つて何か叫んだ。船上から子供が手を振つて応えた。ぼくはほどきまでものびるホースをたどつて坂道をのぼる。前の谷が妙に明るく感じると思つたら、ぼくと母の木小屋がなかつた。営林署のジープと駐在のバイクがとまつていた。すっかり燃え尽きた焼跡の前に数人の男が立っていた。ぼくが近付くとかれらは一斉にぼくを見た。ぼくはここで無言の視線に耐えなければならなかつた。女は遊覧船が通過してもしばらく手を振つていた。健次は顔が見えるほど近くに漕いで行つた。岩の陰になるかして自動車は見えなかつたが、周遊道路があるらしく、ときどき爆音がしてきた。——母ちゃんは家に火を放つて山へ逃げてしまつた。今、消防団や営林署の者が追つて行つていくけど、何をするかわからんからぶつそうだ。この小屋一つで済んだから助つたが、山へでも火が移つていてみる、えらいことになる所だつた。消防団の団長をしている須藤が言つた。いつもは陰になつて庇つてくれていた営林署の出張所長も須藤に相鎚を打つてよそよそしかつた。——若いときから困り者だつたが、結局、娘も親父の血をひいたんだ。須藤はよく肥えた身体をゆすり上げた。母は気が狂れたんでつて。——そうだ。それもだ、朝、あいつが素足で懸想を変えて村まで下りてきたということだ。何か喚きながら橋の所で泣き出した。玉木など親類だから外聞もあるから宥めようとするが、お前を返せと食つてかかつたそうだ。それでも何のことかわからないし、第一気が狂つているなどと考えなかつたから、玉木



chu-zuki

が連れて小屋へ返し、寝かして、すぐにお前を呼びにやったんだ。そしたら、その間に小屋に火をつけてしまった。営林署の者が見に来たところ、ぼうぼうと燃えている小屋の前で、何やら訳のわからんことをぶつぶつ言うかと思うと、燃える、燃える、村も、山も全部燃えたがいい、などと叫んで笑ったそうだ。それで連絡を受けて、みなで来てみると、小屋は燃え尽きたあとで、あいつは隙をみて山へ逃げ込んでしまった。なかなか掴まらんようなら山狩りでもせならん。ぼくは須藤の話聞いて裏山の道を駆け出した。——気遣いの親父に、気遣いの娘に、気遣いの孫よ。須藤の泣きが聞こえた。岸辺の女は健次が山の背を二つほど過ぎてはまだ立っていた。カップポートが上の湖の真中あたりに止まって漂っている。健次はようやくあの木小屋の谷の近くまで漕いできた。健次がいつも振り仰いでながめていた大岩がすぐ目の前にあった。カップポートが浮いている下は溪流が深く山に潜るように流れていたはずだ。その向うになだらかに整然とならんでいた植林はすべて湖の下になってしまった。健次の目から青々と水を湛えた湖が消えて、元の山合いの景色が幻をみるように現われてきた。街道は奥の営林署の出張所の前を通り、奥へ奥へと続いていて、千五百メートルくらいの峠を越えて他国へ抜ける。そこは長々と湖が入り込み、赤いアーチ型の橋脚をもった橋が湖面にあざやかな影を映している。健次は大岩の下まで寄って行く。ぼくは須藤の吐いた言葉が熱く身体を駆けめぐるのが感じながらそれに負けまいと懸

命に走った。山道に沿って岩だらけの溪流がながれている。激湍が岩にあたって砕け散る。白い迸りが山合いに響く。杉林が谷を覆ってうっそうとしている。ぼくはそのとき、みそささえの囁きをふしぎにはつきりと聞いた。そして、母がまるで何でもののように村人からのがれて深い山奥へさまようさまが心に浮かんだ。やがて溪流は岩だらけの谷底に隠れてしまう。そして道はじわじわと水をふくみ、ぬかっ、足にからみついてくる。ぼくは杉木立ちが空を埋め尽すほどに生い繁った急な斜面を這いつくばってのぼった。健次は屏風のようにそそり立った岩にそって谷の奥へポートをを進める。ぼくは服もズボンも靴も泥だらけだった。岩の上から枝ぶりのよい赤松が幹を這わせている。広葉樹は黄色くなり、全山が紅葉に染まるのも間近かだ。斜面をころげるようにして滑ってきた営林署の松尾がぼくを見て声をかけた。——お母さんは祠の滝に逃げ込んだよ。でも、元氣だ。ぼくらが呼んでも興奮しているから全然反応がないけど、きみなら気も落ちつくだろうから大丈夫だ。もう大丈夫だ。松尾はぼくに敵意をあらわさない初めての人だった。——なんであんなになつたんだろう。いつもやさしい人だったのに。思い詰ることが沢山あったんだろうな。それに、みんなして猪か熊でも追うようにすることはなかったんだ。火をつけたって、小屋を燃やしただけだ。女一人の力でそんなに狂暴なことをするわけがないじゃないか。村のやつらのやることがわからん。松尾はそんなことも言った。松尾が母に同情的なことを言ったためかぼくは涙が出て仕方がなかった。松尾は下りるのをやめて、またぼくと一緒に登り出した。健次には水底にすべてが見えるほどだった。岩や山の景色を映した湖の下には今も溪流の岩がそのままになっていることだ。斜面の杉はあらかた切り倒してしまっただが、それでも若木はそのまま水の中に沈んでいる。山も谷もほとんど昔と変わりなく水中花のように湖に沈んでいることだ。ようやく斜面をのぼりきると、百年近く経つ杉林に出た。

ぼくは松尾の後ろを歩きながら、ともすれば追い越そうとする。母に一刻も早く会いたいという思いが気を急がせる。松尾は山稜をはなれて、また暗い杉林の中に分け入った。一度は隠れてしまった溪流が岩の間から滝となって落ちているところがある。そこが母が追い込められた祠の滝だ。母は水垢離のためにそこへよく行っていた。腰巻きをつけただけの母は、白い大きな胸の前で印を結び、厳しい顔をして、一心不乱に祈っていた。岩を伝う滝は細かい絹のようにやわらかい水の幕をつくって母の小さな身体をつつんでいた。ぼくは無心な母の姿に魅入られて岩陰からじっと見ていた。健次は両側に迫る岩の間を漕いできて、やつと奥にちよろちよろと流れている一メートルほどの小さな滝が見える所まで来た。滝の前は少し広くなっている。赤い縞模様はこの岩にも入っている。いつもならこの滝は湖の中に沈んでいるはずだった。この谷合いにはまだ高い杉林が残っている。健次は湖の下にある祠をのぞき込むようにして不透明な緑色の湖面を見つめる。細波立つ湖には杉と色づいた楓と楮と、そして、健次の顔が映っている。——逃げろ、ケンチャン。逃げなさい。逃げないと、お前も殺されてしまうんだよ。母は松尾と一緒にあらわれたぼくの姿を見て、狂おしく身も裂けんばかりにぼくの名を呼んだ。母は祠の上の高い崖の上に立っていた。滝壺のぐるりを二十人ほどの村人や営林署員がとりかこんで見上げている。駐在と玉木の兄さんが崖を遠まわりにのぼっている。ぼくは村人が制止するのも振り切って滝壺の中に入った。水繁吹きが顔にかかって母の姿を隠す。——ケンチャンお逃げ。ここはみんな湖になってしまっただよ。お前は他国者だからきつと殺されてしまう。早くお逃げ。ぼくは崖の上に立つ母が決して狂っていないと思っただ。母はそこへ追い込まれただけだった。身をのり出して叫んでいた母は、やがて、水が流れて落ちるように落ちてきた。健次は今も水底に凍えて横たわる母の姿を見続ける。

(第三話完)

明日のKOBEを創る 130人のリーダーが情熱をこめて語る

FASHION OF KOBE

神戸ファッション都市論

自己主張のある余暇とファッション文化
神戸のモダンライフの流れを探る
ファッション都市は日常生活の集積から
スポーツライフがファッションをリードする
ファッション文化に不可欠な創造性
住むのに最高の町、日本の外国、神戸
神戸文化の背景は国際的モダニズム
ファッション都市づくりの核にメッセ(見本市都市)の設置を
ファッション都市はショッピングエリアから
ファッション都市の舞台装置を創る神戸の家具
洋菓子こそ神戸文化のパロメーター
全国の80%を集散する神戸の真珠業界
ファッションは生活のゆとりのなから生まれる
トータルファッションのなかの神戸シューズ
百年の伝統と世界的技術を誇る神戸の洋服
神戸の生活文化を培うデパートメントストア
ファッションナブルな神戸の魅力をつくる北野町界限
世界的な水準を誇る神戸の味覚文化
長期ビジョンをもったファッション都市づくりを
ファッション都市に必要な空港とホテルと見本市会場
ファッション情報センターの設置が急務
ファッション都市を創る人材を養成する
豊かな文化が経済活動のエネルギーとなる
既成市街地の整備と未来の海上都市の建設
あすの神戸、国際情報文化都市の創造を目指して

お待たせいたしました
市内各書店にて発売中!

編集 / 月刊「神戸っ子」
発行 / コミュニティサービス株式会社
(〒650)神戸市生田区東町113-1大神戸ビル7F TEL.078-331-2246

KOBE MOOKS No.1
定価 1,200円
送料 200円
A4版 220頁